

天命はコレクション

中田 北原さんとは出身大学が同じで、先輩、後輩の関係です。いつもは「センパイ」と呼んでいますが、今日は対談ということで、「北原さん」とお呼びします。本日はどうぞよろしくお願ひします。

北原 こちらこそよろしくお願ひします。

中田 北原さんと言えば、おもちゃコレクターとして有名です。コレクションはどれくらいあるのですか。

北原 数はかぞえられないですね。僕は守備範囲が広いというか、興味の幅がすごく広いんです。よく「どういう基準でモノを集めるのですか」と聞かれるんですけど、僕はいつも「自分の琴線に触れたものを集めています」って答えます。だから、僕のコレクションを見たら「こんなものまで集めてるの？」って思う人はたくさんいると思うんだよね。みんなは僕のことを「ブリキのおもちゃコレクター」って言うけど、全コレクションの中でブリキのおもちゃは二割くらい。あとは広告や映画のポスター、生活雑貨、時計やラジオからペダルカー、現代アートなど、琴線に触れたものはなんでも集めている。ちよつとエッチな「和印」というジャンルがあるんだけど、和印だったら僕は世界一のコレクターですよ。

中田 和印というと？

北原 春画の立体バージョンと言えばわかりやすいかな。コレクションの本も出してるよ。最近、インド人のお客さんが百冊買ってくれた。いやらしいものじゃない。アートブック

がまた良くて、窓辺に花を飾ったり、古い家具や置物なんかもみんなおしゃれなの。モノと人の関係がすごくいいというか、「暮らしを楽しんでるんだな。こういう暮らしってあるんだな」って感動した。それで僕も好きなものに囲まれて生活したいっていう気持ち萌芽生えたの。日本に帰ったあと、たまたま粗大ごみとして捨ててあった八角形の柱時計を見つけて、それを拾って油をさしたら動き出した。それがスタートです。熱しやすく冷めにくい性格でね、五十年間も続いた。そう考

えるとすごいね(笑)。
中田 ヨーロッパの人は古いモノを大切に使うっていうことですが、当時の日本は新しいモノを求めていた時代ですよね。

北原 使い捨てだよな。
中田 古いモノを捨てて新しいモノを買うという風潮の中、あえて古いモノを求めるというのは時代に逆行していたということですよ。ね。

北原 そうだね。もしあのときヨーロッパに行つてホームステイしたり、それぞれの国の暮らしぶりを見ていなければ、集めていなかったかもしれない。

中田 処分されそうな年代物のおもちゃなどを北原さんが集めていなかったら、なくなっていたものがたくさんあったでしょうね。

北原 八割はないんじゃない？ だって、おもちゃ屋さんが捨てようとしていたものを買って取つていくくらいだから。譲ってくれて

だからね。武田双雲の書もあつて、撮影は桐島ローランド、ロンドン大学の教授が解説しています。

中田 和印は昔からあるのですか。

北原 ありますよ。大正時代終わりから昭和初期のものだけ。ようするに、僕は自分がいいと思うものだけをコレクションしています。二十歳のときからだから、もう五十年だね。

中田 集めようと思えば、どんなものでもコレクションできますね。やり始めたらきりがないでしょうね。

北原 今ではひとつのジャンルでイベントができるくらいあるよ。六本木ヒルズの森アーツセンターギャラリーで、僕のコレクションだけで「超驚愕現代アート展」というのを一ヶ月間やつたくらいだからね。自分で言うのもなんだけど、これだけの数を集められる人って稀じゃないかな(笑)。

中田 稀ですね。そもそも北原さんはなぜコレクションを始めたのですか。

北原 十九歳のときにヨーロッパに行つたんです。学園紛争が激しい時で、授業がなかったから休学してオーストリアのインスブルックに一年間。実家がスキー専門のスポーツ用品店だったので、スキーを学ぶために行つたんです。ホームステイ先の家もそうだったけど、オーストリアもドイツもイタリアも、ヨーロッパの人たちつて、みんなおしゃれに暮らしてるんだよね。建物は古いけれどそれ

言つたら「よかつた、もう捨てようと思つていた」って喜んでくれたよ。逆に「こないだお金払つて捨てちゃつたよ」ってこともあつた。僕がいつも、欲しい欲しいって言つてたから、骨董屋さんたちが見つけて教えてくれたりね。

中田 古いモノと言つても、百年前くらいのものなら価値があるかもしれないませんが、数年前のものは、単に型が古くなった流行遅れで、それに価値を認める人はあまりいませんよね。

北原 僕の実家もスポーツ店をやつていたからわかるんだけど、去年のモノは半額、二年前のモノなら七割引きなんて当然だった。だけど、百年経つたらどんなものでも価値がある。よく付喪神^{つくもがみ}つて言うよね。百年経つたものには神様が宿るといふか、それ自身が価値を引つ張り上げる。それつて、どんなものでもそうだと思うよ。ただ、それを見て感じる人がいないとダメだね。感じる人がいないと、モノもいい表情をしないし、いい気を出さない。

中田 すると、北原さんが五十年前にコレクションを始めた当時、そのとき最新のモノが今はいま五十年モノになつていくということですよ。

北原 そういうこと。スターウォーズなんかもそう。僕のコレクションをいろいろな雑誌で取り上げてくれたけど、当時も「今、売つてるモノで価値がでるものつて何ですか？」つて聞かれることがよくあつた。だから僕は

「それならスターウォーズを集めればいいじゃないですか」つて答えてたわけ。だって、フィギュア一個が五千円くらいで売ってるんだよ。でも、そう聞く人に限つて買わないんだ。僕なんてダースで買つてあるよ(笑)。今は一個十五万、二十万円くらいにはなつてるんじゃないかな。するとね、たいてい「じゃあ、すごく儲かつたでしょう」つて言われる。でも僕はどれ一つとして手放していない。集めたものは全部持つてる。どんなに価値が上がつてもね。

中田 それがすごいですよね。

北原 僕は「開運！ なんでも鑑定団」つて番組に出てるでしょう？ だから、集めたモノを番組で査定して、それを売つて生業にしてるんじゃないかって思っている人はたくさんいると思う。はつきり言うけど、どんなに高い値がつこうと、僕はこれまで一度だつてコレクションしたモノを売つたことはないよ。
中田 僕も子供のころ、ウルトラゼブンに出た飛行機のおもちゃをもっていました。機体が三つに分かれるおもちゃで、すごくかっこよくてお気に入りでした。でも、やつぱり今はもうないです。

北原 そりゃあ、ふつうはないよ。おもちゃは子供の成長過程の中であつたものだから、今あるほうがおかしい。僕の場合、大人になつてその良さを見出して情熱的に集めるようになった。たまたま売れ残つたおもちゃや、店のデッドストックの中にあつたものだから

中田 「モノにしても何にしても、作り手側からすると、

大切に持ち続けてくれる人はありがたい存在だと思います」

北原 「人は周りから評価されると、喜びや使命感が出てくるんだよ」

をね。僕は情熱的なんだな。

中田 情熱に反することを聞きしますが、北原さんはコレクションすることに役割りのようなものを感じているのですか。

北原 最初は単に好きなモノに囲まれていたという思いで集めたけど、そのうちいろいろな人が評価してくれるようになって、使命感みたいなものが出てきた。周りから評価されるとうれしくなるし、そのうち使命感に発展していくんだよ。だから誰からも評価されなかつたら、きつとこんな集めなかつたらうね。たまたま時代が後押ししてくれて、僕のコレクションをテレビの特集で取り上げてくれたり、コマースシャルで使ってくれたり、雑誌の表紙で使ってくれたりして評価してくれるようになった。そうやって評価してくれる人が出てくれば出てくるほど、喜びもたくさんあったし、これは使命だっと思うようになった。「これは神様が僕に与えてくださった役割りなんだな」って。「あなたは姿を消してしまうものを集めて、次の世代に残さない」というようなね。なんかそういう使命感を感じます。使命感があると人間は異常に燃えるんだよ(笑)。

中田 モノにしても何にしても、作り手側か

らすると、北原さんのように大切に持ち続けてくれる人というのはありがたい存在だと思います。北原さんのところに持ち込む人もいいのではないですか。

北原 いないことはないけど、少ないね。自分が作ったモノでも持つていない人は多い。だから、そういう人たちは僕のコレクションを見るとやたら喜んでくれます。おもちゃの職人さんとかね。おもちゃ博物館やデパートのイベントでたまたま当時のおもちゃを目にする、涙を流さんばかりに喜んで、「これ、私が作ったんですよ！」って、ずっとそこで眺めてる。生き別れた我が子に出会えたという感じだね。

中田 北原さんが海外で見つけて日本に里帰りしたものはありますか。

北原 いっぱいありますよ。たとえばブリキのおもちゃだつたら、第一次世界大戦以降のモノとかね。ハワイのアロハスタジアムでやっていたフリーマーケットで見つけたソフトビニールの人形もそう。僕はそれほどソフトビニールに興味はなかつただけど、すごい数が並んでいたから足をとめたら僕の本が置いてあつてね。店主の女性は無類のおもちゃ好きで、僕が来たことをものすごく喜んでく

れて、自分のコレクションを見てくれて家まで案内してくれた。行くとソフトビニールの人形がかつこよく並べてあつたんだ。それを見た瞬間、本気で集めようと思った。フリーマーケットだから安いしね。結局、段ボール二箱分くらい買って帰った。あれから二、三十年経つてんのかな。今じゃ一番高くて一個百万円くらいする。時代が値段をつけていったって感じだよ。

中田 私もミヤンマーに行ったとき、骨董市で大日本帝国時代のコインを見つけたんです。店主がすすめるので、半信半疑で買って帰って鑑定に出したら偽物でした。高値がつくかと思つたら、そうじゃなかつた(笑)。

北原 それはそうだろうね。欲が勝つと目が曇るんだと思うよ。欲しくもないのに価値が上がると思つて買つてるだけだから。僕は本当に自分がいいと思つたモノを買つてる。もちろん、いざれ評価が出ると思つてね。だつて、価値が下がるモノをわざわざ買わないでしょう。これはぜつたい評価される、僕がこんななときめくんだからつて。

